

講師のひとりごと

「改めて日本語を：」

【以前新聞で見かけた記事です。】

ある男性が、老夫婦から娘が四人いると紹介されました。「娘の名前は上から鶴子・幸子・雪子・妙子です」と。その時男性は、この老夫婦は非常に気品があり、知的な方であると一瞬で推察した。」

さて皆さん、この意味が分かるでしょうか。実はこの四姉妹の名前は、谷崎潤一郎の代表作である『細雪』の主人公である四人姉妹の名前です。「細雪」は、数多くの文学賞を獲得し、外国語にも十力国語以上に翻訳され、あの昭和天皇にも献上されたとの話も残っています。

お契め図書のコナー

『最高のリーダーは何もしない』

藤沢久美 ダイヤモンド社

リーダーといえば「即断即決・勇猛・大胆」「ついでにきつくなるカリスマ性」「頼りになるボス」というイメージを持つ人も多いでしょう。しかし、権限を現場に引き渡し、メンバーを支えられ、組織を勝利へと導いているようです。優秀なリーダーほどリーダーらしき仕事を何もしていないと語るの

「人生は、運よりも実力よりも「動進いさせる力」で決まっている」
ふるむた ダイヤモンド社

「経済政策に期待できるから」「実績があるから」等容姿とは別の理由で投票したと思込んでいた。というのだから驚きです。これは「容姿が優れている」という特徴が、「その人間全体が優れている」と変換されてしまったのです。「上場企業の部長をしていた」「月間300万PVのブロガー」

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉のように、過ぎしやす季節になってきました。暑さ寒さも彼岸まで」という言葉の裏には、冬の寒さは春の彼岸のころには和らぐ」というものですが、実はもう少し深い意味合いも含まれていることをご存じでしょうか。それは「彼岸になると暑さも寒さも和らぐ」ということから、どんな困難な事態でも、あるときを過ぎると、峠を越えるということ。また、それまであきらめず耐えれば、解決するということ。」という意味です。この言葉もお墓参りをしながら思いつかへていて、ご先祖様に言われているかのような気持ちになってきます。彼岸の際にはこの言葉を思い出しながらお墓参りをしてみたいかがでしようか。

「一七七四年、カナダで選挙があった。その選挙を調査したところ、イケマンの政治家は、そうでない政治家の二、五倍もの票を獲得した。「イケマン」だから投票した」のは全体の十四パーセント、残りは一八人が信頼できるか

「あの有名なベストセラー本を担当した編集者」等と聞くと、つい「優れた人」と思い込んでしましますが、これが「思考の錯覚」つまりは勘違いの力なのです。本書ではこの「思考の錯覚」を利用し、本書を売り込む術が書かれてあります。何をしても悪く解釈される人、裏目に出てしまう人は一読されることをお勧めします。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉の裏には、冬の寒さは春の彼岸のころには和らぐ」というものですが、実はもう少し深い意味合いも含まれていることをご存じでしょうか。それは「彼岸になると暑さも寒さも和らぐ」ということから、どんな困難な事態でも、あるときを過ぎると、峠を越えるということ。また、それまであきらめず耐えれば、解決するということ。」という意味です。この言葉もお墓参りをしながら思いつかへていて、ご先祖様に言われているかのような気持ちになってきます。彼岸の際にはこの言葉を思い出しながらお墓参りをしてみたいかがでしようか。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉の裏には、冬の寒さは春の彼岸のころには和らぐ」というものですが、実はもう少し深い意味合いも含まれていることをご存じでしょうか。それは「彼岸になると暑さも寒さも和らぐ」ということから、どんな困難な事態でも、あるときを過ぎると、峠を越えるということ。また、それまであきらめず耐えれば、解決するということ。」という意味です。この言葉もお墓参りをしながら思いつかへていて、ご先祖様に言われているかのような気持ちになってきます。彼岸の際にはこの言葉を思い出しながらお墓参りをしてみたいかがでしようか。

閃光 平成三十一年卯月号



「事業継承」

三十六歳で研修事業を起業し、今年で三十三年になる。企業の寿命が三十年と言われるが、あつという間に歳月が流れた感がある。ここ数年は社員の成長にエネルギーを投入し、事業継承を念頭に仕事に取り組んできた。六十五歳には社長を交代し経営を見守る立場を考えていたが、なかなか決断できず今年古希を迎えることになった。まだまだ心配な点があるが、いつまでも決断しなければ事業の継承はできないと思いつ、今年も平成天皇が退位することもあるので、三月一日から現常務を社長に昇格させ、会長に退くことに正式に決定したのである。新社長以下全社員自分たちが会社を引き継ぎ、さらに発展させようという気構えは充分感じるので、あとは思い切って任せ、彼らがのびのびと仕事に取り組み、自己の成長、会社の成長をあたたく見守るつもりである。どの世界でも、世代交代はあるので、いよいよ当社も新しく生まれ変わる時がきた。創業以来、全身全霊で事業に打ち込み、多くのお客様に支えられ今日までやってこられ、第一線から離れることに寂しさもあるが、これまで育ててきた社員の成長を楽しみに、できる限りサポートに徹していく覚悟である。

ビジネス教育訓練所株式会社

代表取締役 三塚 信一

管理者特訓六日間合宿

一月二十一日(月)～二十六日(土)

厳寒の最中、今年最初の管理者特訓が行われました。下は二十代後半から上は四十代後半まで幅広い年代が集まりました。役員も一般社員から執行役員まで集い、非常にバラエティに富んだメンバーでした。今回特訓すべき事は、何と言ってもチームワークが良くなった事です。最初はよそよそしかった訓練生達でしたが、日毎互いが助け合う姿が何度も見られました。なかなか管理者十箇条を覚えられなかった訓練生が、早め合格した訓練生が、つきっきりで教えたり、審査を終えた訓練生は、次の訓練生に交代する際に必ず激励の言葉を贈るなど、支え合いながら一つずつ訓練を乗り越えていきました。特に四日目に終わった夜間歩行訓練では、到着が午後九時三十八分と、秋保開催のコースでは二十年で最速の時間

合宿訓練に参加して、学んだ事、気付いたことはとても多く書き切れないほどあります。それぞれ二つずつに絞ると、学んだ事の一つ目は「仲間の大切さ」です。卒業スピーチでも熱く語りましたが、一人では絶対に卒業できませんでした。二つ目は「情熱で人は変わる」ということです。「情熱」がなければ、卒業必須項目は一つ合格することはできません。気付いたことは「自分の未熟さ」と「考えることの大切さ」です。今までの自分がどれだけ未熟か痛感し、考えることで本質が見えてくるのだと感じました。先生方、本当にありがとうございました。



